

木本議員 皆様、おはようございます。5番木本千代子です。私の公約の一つであります「みんなで作る活気ある牟岐町」の中から「料理による町の活性化案について」料理教室で町が元気に。目的は料理教室をシリーズで開催。単に料理の先生に作り方を教わるということではなく、町の食材や暮らしの中の料理、継承されている食文化をみつめるきっかけとし、料理の創作を通じて、町の活性や人の呼び込みにつなげることを目的とします。町の未来図は牟岐町がおいしい料理で溢れる町となり、料理作りや食材選びを通じて、町が一つになります。食に関する年配の方々の知識や体験を継承、若い世代がワクワクと受け継ぎ、創造していく。料理を通じて町が笑顔溢れる。活気があって、人が集うサステイナブルな町となるよう貢献します。それでは、質問一つ、料理による町の活性化案について、牟岐町には、新鮮な魚介類が豊富にあります。その他にも魅力ある豊富な食材があります。食材の魅力を引き出した料理を牟岐町の魅力発言のコンテンツとして位置づけ、料理を軸にした取り組みを進めていくことで、町の活性につなげたい。町民による親子で牟岐創作料理作り等を通じて、牟岐町の食資源の魅力を再発見し、町の伝承料理や家庭料理の継承を通じて未来に続く牟岐の足掛かりにしたいと考え、協力、支援の提案を行うが、町の見解をお聞かせください。続いて、次に、公約の一つでもあります、安心して子育てできる牟岐町の子育ての悩み相談と子ども連れに優しい場所作りから、「子どもの居場所について」です。子どもの年齢、性格、関心に応じてバランスを取りながら、適切な居場所を提供することが大切です。また、親や保護者のサポートとコミュニケーションも子どもの居場所の選択において重要な要素です。牟岐町としては、どう子どもたちの学びや育ちを学校に行く行かない、家庭の環境に左右されず保障できる体制を作るのかをお聞きしたい。子どもの居場所について、質問1番、本町における不登校や引きこもりの児童、生徒数の状況はどうか、教えてください。2番、近年、徳島県では、子ども未来局が新設され、「子どもの居場所等」子どもたちの豊かな学びや育ちを保障する動きがあるが、本町では今後どのように考えているのか。3番、スタッフの確保や子どもたちの人数から、今後は海部郡3町の広域で、子ども、若者の支援体制を考えていくべきではないか。町としての見解をお聞かせください。よろしくお願ひします。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

栢富町長 皆さん、おはようございます。木本議員の【「料理」による町の活性化案について】のご質問にお答えします。牟岐町内で収穫、採れる農林水産物や加工品などは、米、実生ゆず、もち麦、ジビエ、伊勢海老、アオリイカ、アワビ、ナガレコなどたくさんありますが、近年、高齢化の進行、漁獲量・漁業者数の減少や有害鳥獣の食害により厳しい状況にあります。牟岐町においては、令和5年度に地産国消推進事業に取り組んでいます。目的としまして、牟岐町内の農林水産物等(米、実生ゆず、もち麦、ジビエ、イセエビ、アワビ、ナガレコ等)の地産国消を推進し、町内事業所での利用や学校給食などを通じた食育を図っています。具体的な内容としましては、1つ目としまして、農林水産業体験。牟岐小中学校やシラタマ学級を対象として、漁協、農協等と連携し、農林水産業体験(ゆず収穫、磯あそび、寒天づくり体験等)を実施し、一次産業に触れる機会を提供します。2つ目としまして、学校給食における地場製品の促進。地元農水産物が学校給食で提供される機会が少ないため、学校給食で提供できる仕組みを作ります。特に地元魚介類が学校給食で取扱われたことがなく、商工事業者による切り身やすり身として加工された魚介類が提供できる仕組みづくりを行います。3つ目としまして、地域食文化の継承。現在、文化庁の100年フードに「島そうめん」を登録しており、新たに登録された「牟岐の押し寿司」とともに地域食文化の継承につながる取り組みを推進します。また、牟岐町観光協会・四国の右下観光局や事業者などと連携し、地域特有の「食」、「自然」、「文化・歴史」すべてをウォーキングによって一度に体感できるガストロノミーウォーキングの実施など牟岐町内の食材・料理や文化を味わえるような誘客促進事業が実施できないか調査・研究していきたいと思っています。次に、「子どもの居場所について」お答えします。「本町における不登校や引きこもりの児童・生徒数の状況」ですが、はじめに簡単に説明させていただきますが、「不登校」は病気や経済的な理由がないのに学校を年間で30日以上欠席した小学生から高校生までの児童・生徒のことを指します。一方「引きこもり」は年齢に関係なく、仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに自宅にこもり、6か月以上続けて社会参加をしないでいる状態のことです。牟岐町における児童・生徒についての人数ですが、現在、小・中学校ともに数人はいます。「子どもの居場所等」について、本町では有志の方により居場所事業を実施していただいています。名称は「われもこう」です。町としまし

ではこの事業にフリースペースの場として旧牟岐小学校の教室を、また、てらす食堂事業に海の総合文化センター調理室を無料でお貸ししています。今後居場所づくりについて費用も必要かと思われませんが、今年度新設された「子ども未来局」における未来応援交付金は、前提として、1つ目に自治体自ら。2つ目にNPO等に委託して。3つ目がNPO等を補助して実施し、子供を行政等の必要な支援につなげる事業となっています。子ども食堂的な「食の提供重点支援事業」につきましても先の要件が必要であります。現在は、本町としては光熱水費を含む事業の場所提供にとどまっています。今後については、現在事業を実施していただいている方々の考えや意見を参考に検討してまいりたいと思います。議員ご指摘の「スタッフ確保」及び郡内3町での共同支援につきましても、同様に今後検討してまいりたいと思います。以上です。よろしく申し上げます。

喜田議長 木本議員。

木本議員 町長、ありがとうございます。皆さんが知っているように、島そうめんとか100年フードの押し寿司、もの凄く有名になっています。それ以上にもっと「流れ子」とか「もち麦」とか「実生ゆず」とかがありますので、「アオリイカ」とか、もっともっと作られたら良いかなと、増やしたら良いかなと思います。それと、先ほどの子どもの居場所についてですけども、最近ですが、9月1日、文部科学省から「不登校特例校」の新名称として「学びの多様化学校」という名前が変わったそうです。それに心プランと言って、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策とか、新しいことで進めていっているようです。そのように子どもたちがもの凄く増えているので、やはり3町一緒になったら、発達して行って、皆さんが行きやすいと思います。それによつては、交通費とか要ると思うのです。海陽町、牟岐町、美波町等で、そういうのも子どもたちに交通費も出してあげたらと思ったりします。昨日のことなのですが、「われもこう」の人たちと話をしていましたら、応援サポーターの名簿登録を作ったらいかがですかということを投げかけたら、そんな単純なこと分からなかったですと言って、さっそく応援サポーターの名簿登録をするそうです。かなり増えているような感じです。ありがとうございます。あと、これからで、終わりの言葉として、地域の発展に向けた取り組みを共有し、みなさまの協力やサポートに感謝しています。そして、ご意見や提案は非常に貴重で、これからも共に協力し、より良い未来を築いていくことを引き続き努力していきたいと思っております。これで一般質問を終わらせていただきます。失礼しま

す。